

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見			
[1] 学習指導と進路指導の充実 （企画マルチメディア課） （教務課） （図書課） （進路課）	① 指導内容の精選や指導方法の工夫改善により、よくわかる授業を行うことと、学習意欲を高め、基礎基本の確実な定着を図るとともに、課題を発見し、自ら考え行動し解決できる力を育成する。 ② 進路相談を充実し、個々の生徒に合った支援をするとともに、集団の一員としての社会適応力や職業観を培い、生徒一人一人の進路実現を図る。	①-1 教職員は様々な工夫をして授業に取り組んでいるの質問に対し「おおよそ当てはまる」以上が80%以上。	・教職員は様々な工夫をして授業に取り組んでいるかの質問に対し「おおよそ当てはまる」以上が90.4%であった。	A	（評定） B （所見） ・教職員は様々な工夫をして授業に取り組んでいる。 ・授業に対する満足度は約27%が「満足」、約83%が「おおよそ満足」であった。昨年度はそれぞれ16%、77%であったので、「満足」の割合が高くなっている。 ・授業には意欲的に取り組んでいるが、半数に近い生徒が計画的な学習ができていない。昨年度とほぼ同様であった。	○ 学習に対しての習慣づけが低い理由については、原因をしっかりと把握し、授業改善をしていく必要がある。先生方の自己評価が低い傾向があるが、謙遜ではなく、高く評価した方が良い。これからも継続した工夫で、授業をさらに充実させて欲しい。 ○ 生徒用タブレットを効果的に使用し、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるよう工夫した授業を展開することで、さらなる授業力の向上及び授業満足度の向上を図りたい。 ○ 大学進学実績についても、国公立だけでなく難関私学にも力を入れて欲しい。	
		①-2 授業に対して満足しているの質問に対し「おおよそ当てはまる」以上が80%以上。	・授業に対して満足しているかの質問に対し「おおよそ当てはまる」以上が83%であった。	A			
		①-3 計画的な学習ができている、意欲を持って授業に取り組んでいるの質問に対し「おおよそ当てはまる」以上が80%以上。	・計画的な学習は67%、意欲を持って授業に取り組んでいるが88%であった。	B			
		①-4 授業時数の確保率を83%以上。	・年度末において、商業科、普通科とも83%以上になる見込みである。	B			
		①-5 図書室の利用活性化のために、各学期に2回以上、企画展などを行う。	・各学期に2回以上、企画展を開催し、生徒の参加も活発であった。	B			
		②-1 一人一人に対応したきめ細かな進路指導が行われているという質問に対し「おおよそ当てはまる」以上が80%以上。	・81.5%（生徒84.8%保護者77.8%）であった。	B			
		②-2 大学合格実績において、旧帝大等 難関10大学・医学部医学科合格を10%以上。	・旧帝大等 難関10大学 医学部医学科合格は12名で8.4%で、達成には至らなかった。	C			
		②-3 商業科において、全商1級3種目以上取得者25%以上、就職内定率100%。	・全商1級3種目以上取得者38%、就職内定率100%であった。	A			
		活動計画		活動計画の実施状況			
		①-1 相互授業参観や授業研究会、職員研修等を年間2回以上実施して授業力の向上を図る。	・相互授業参観は1学期と2学期に実施した。職員研修会は、1学期に1回「情報アプリ研修」を実施した。				
①-2 電子黒板、生徒用タブレット等ICTの活用による授業、すなわちGIGAスクール構想を推進する。	・Chromebookが導入され、タブレットの活用が進んだ。研究授業の際にタブレットを使用する授業が多						

			くなされた。		
		①-3、②-1 授業評価アンケートを行うことで目標達成度を評価し、その結果を授業改善につなげる。	・授業評価アンケートは1学期末に1回実施した。集計結果は10月に返却できた。		
		①-4 学校行事の精選、各学期末考査後の日程、授業実施曜日のバランス等、年間を通じての入念な計画を立て、授業時数確保に努める。	・学校行事を精選し、関連する課が連携して、バランスを取りながら計画し、授業時数を確保できた。		
		①-5 図書室利用を増やすために各種企画を行うとともに、必要な図書を増やす。	・本年度蔵書を約500冊追加した。SDGs、人権教育、キャリア教育などの資料充実が図れた。		
		② 教科のスポット補習を実施する。また、2週間に1回のペースでテストを始めとした遅進生徒の発見の手だてを講じ、生徒の学習指導を支援する。	・地歴公民の補習も含め必要な補習を実施できた。遅進生徒の発見の手立ては引き続き検討を要する。		

<p>[2] 中高一貫教育の充実</p> <p>(教務課)</p> <p>(企画マルチメディア課)</p>	<p>① 中高教職員の緊密な連携のもと、指導方法の工夫改善や教科横断的な学習の充実を図り、6年間の計画的・継続的な指導を行うなか、生徒の個性や能力を伸ばさせる。</p>	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<p>○中学生の授業への満足度は高いが、やはり中高の授業接続が大切さである。さらに、教員の負担を増やすことは難しいが、学習の進度を確保しつつ、中高一貫校の特色を出して欲しい。特に、英語力向上については、英検の重要性が増している。</p> <p>○学区制撤廃に向けての、目標設定が大切である。富東の魅力化を推進していくため、進学・部活動が盛んなどいろいろな魅力を打ち出していく必要がある。</p> <p>○中高一貫教育研究委員会や校務運営委員会等における協議を活性化させ、行事の精選を進めていきたい。</p> <p>○富東の魅力化を推進していくため、進学・部活動の目標設定を再検討し、広報活動を強化する必要がある。</p>	
		①-1 中高一貫教育研究委員会を年間2回以上。	・中高一貫教育研究委員会を1、3学期に各1回実施した。	A		(評定)
		①-2 中高教職員による相互授業参観や事後研修会を年2回以上。	・中高教職員による相互授業参観を1、2学期に各1回実施した。研究授業の授業参観・事後研修も複数回実施した。	A		B
		①-3 中高教職員による授業交流を複数の科目で実施。	・数学と英語の科目において例年通り中高教職員による授業交流を実施した。国語も一部実施した。	B		(所見)
		①-4 中高合同教科会を各学期1回以上。	・中高合同教科会を各学期にそれぞれ1回ずつ実施した。	A		・学校行事や講演会、職員研修会は精選して実施した。状況に応じて対面とZoomとを使い分けるようにした。
		①-5 ESD(持続可能な開発のための教育)活動について連携し、中高合同の講演会や発表を年1回以上。	・3月に中高合同課題研究発表会(中2と高2)及び卒業生と語る会を実施予定。	B		・本校中学生の体験授業を実施した。生徒の満足度は大変高かった。教員の負担については考慮の余地がある。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 有効で実施可能な案を事前に検討し、委員会では具体的な検討を行う。また、内進生の6年間成績の推移を用いて向上対策を検討する。	・教員の負担を大きく増やさず、中高一貫連携や成績向上を図る新たな方策があまりないのが現状である。			
①-2 相互授業参観を1、2学期に各1回計画し、校種を超えた授業を参観することが	・中高一貫教育研究委員会を1、3学期に各1回実施し					

		<p>できた。また、研究授業後の研修会へも参加した。</p> <p>①-3 国語・数学・英語を中心に中学校の授業に高校教員が入ることで、併設型中高一貫教育のメリットを活かした指導法や指導体制を検討する。</p> <p>①-4 各学期初めの職員会議後に中高合同教科会を行う。</p> <p>①-5 ESD 活動（ユネスコスクールの取り組み）を推進し、年間2回以上の関連行事を行う。</p>	<p>た。研究授業ではその教科の教員が研修会に参加した。</p> <p>・国語は必要に応じて各学期1回程度、数学は1学期から、英語は3学期から高校教員が習熟度別に分けて授業に入っている。その他芸術・体育以外は入っていない。さらなる改善の余地はあると思われる。</p> <p>・中高合同教科会を各学期ににずつ実施した。</p> <p>・「服のチカラプロジェクト」で子供服を集める活動は、今年度も行った。高校生に対しては対面での講演会を1回実施した。</p>		<p>○服のカプロジェクト等の幅を広げた実践力が大切である。</p>
<p>[3] 豊かな心を育む教育の推進</p> <p>(生徒指導課)</p> <p>(人権教育課)</p>	<p>①教育の全領域において、時間厳守、身だしなみ、マナー等の基本的な生活習慣を身につけさせるよう努める。</p> <p>②学校・家庭・地域社会との連携を深め、豊かな人間性を身につけさせ、さまざまな人権問題の解決のため、主体的に取り組む能力・実践力の育成に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 年間遅刻回数 20 回以上の生徒 0 人。</p> <p>①-2 学校評価アンケートで身だしなみがきちんとできていると自己評価する生徒の割合を 90 % 以上。</p> <p>②-1 生徒対象アンケートで「人権問題について意識し、差別をなくすために行動したい」とする回答が 80%以上。</p> <p>②-2 保護者・教職員対象アンケートで「人権を尊重するための様々な取組が行われている」が 80%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 多遅刻者には、保護者への連絡を密にする。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>・遅刻回数 20 回以上の生徒（2 学期末現在）は 4 人いた。 B</p> <p>・「身だしなみがきちんとできている」にあてはまると自己評価した生徒の割合は 97.3 % であった。 A</p> <p>・「行動したい」という積極的な意見は 44 % であったが、「1 人ひとりが意識を高めることで人権問題を減らしていくことができる」という前向きな意見は 63 % であった。また、人権学習に積極的に参加した生徒は 56 % で、3 年連続して増加した。 B</p> <p>・「だいたいできている」以上の回答が教職員保護者、生徒とも 90 % であった。 A</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>・遅刻者には、その都度指導し、生徒理解につなげた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>・特定生徒の遅刻回数が多く、昨年度より 2 人増になった。生徒との連絡を密にして担任は指導しているが、なかなか改善しない。数値目標は達成できなかった。</p> <p>・基本的な生活習慣や身だしなみに気を配っている生徒が多く、良好な学校生活を送れている。</p> <p>・高校 3 年間、人権 HR をはじめとする教職員や学校全体での様々な取組や家庭の協力の成果があったと考え</p>	<p>○今回のアンケートのように対面では言えないことを匿名でも言える関係性をつくって欲しい。</p> <p>○遅刻が多い生徒と教育相談を要する生徒の増加は関連があり、特定生徒に限られることが多いため評価指標等の再考を検討したい。</p> <p>○生徒・保護者・教職員が人権意識を高められるように、継続的な啓発・学習が重要である。年間行事の時期・内容については、更に充実したものにできるように努めたい。</p> <p>○専門的な知識を持ち、心理学などを研究されたスクールカウンセラーに生徒の対応をしていただくことは大切である。</p> <p>○豊かな心を育み、自己肯定感を上げる教育をどのように進めるかが重要である。</p>

			遅刻回数が多い生徒については、家庭との連絡を密にとり協力をあおいでいる。		
	①-2 身だしなみを整えたり生活全般においてマナーを守ることの大切さについて集会やHRでの指導を通して自覚を高める。清掃活動への自主的な取組を促す。		・昇降口指導や年3回の各HRでの服装・頭髪チェックを通じて指導の徹底を図っている。学年集会時にも身だしなみに関する指導を行っている。		
	②-1 人権教育ホームルーム活動を充実させ、授業展開等の工夫をする。また、月1回の「富東人権の日」に「富東人権新聞」やアピール放送を使って啓発する。		・指導案を基に各学年で事前検討会を行い、共通理解を図ることができた。また、人権教育推進委員が教員と話し合いながら執筆した人権新聞の発行やアピール放送をすることができた。	・人権HR活動の前に、各学年で指導案作成し、検討会を行った。生徒の実態を鑑みて内容を検討できた。教職員の共通理解に基づく人権HRを実施できた。	○教職員の人権感覚を高め、身近な問題として考えられる生徒を増やすため、教職員研修を充実したものにできるように努めた。
	③-2 校内研修会を企画し、教職員の人権意識を高める。また、「富東人権新聞」を保護者にも読んでもらい、人権意識の高揚を図る等の継続的な啓発を行う。		・教職員対象に3回、講演会等の研修会を実施することができた。人権新聞の発行時には、毎回担任から保護者と話し合う機会を持つように呼びかけを行った。	・教職員に対しては同和問題についての知識・理解をさらに深められるような内容を検討したい。	○「富東人権新聞」やアピール放送の内容については、引き続き担当教員と生徒で内容を吟味していきたい。

<p>[4] 特別活動の充実</p> <p>(特別活動課)</p> <p>(環境防災課)</p> <p>(保健厚生課)</p>	<p>①部活動や生徒会活動等において、生徒の自主的活動の育成を図るとともに、活力あふれる学校づくりに努める。</p> <p>②環境問題への意識高揚と校内環境美に、安全教育の徹底と健康増進の積極的指導に努める。</p>	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<p>○掲示板等で部活動等の諸活動を発信しているが、生徒会での各種啓発活動を活発にしていきたい。</p> <p>○訓練について、地震津波・火災の他、場面に応じた避難ができるよう各学期で実施する。</p> <p>○講演会等による集団への指導や、保健委員会活動の充実を図りたい。</p>	
		①-1 部活動の壮行会を学期1回以上。	・生徒会主体の壮行会を多く行い、部活動にスポットを当てることができた。	A		(評定)
		①-2 生徒会主体の球技大会のアンケートで満足度を81%以上。	・90%の生徒が満足と回答。継続する。	A		B
		②-1 避難訓練を各学期1回以上。	・1学期2回、2学期2回、3学期1回実施	A		(所見)
		②-2 アンケートで「校内美化活動に積極的に取り組んでいる」の割合が80%以上。	・生徒・保護者・教員とも80%以上であった。	A		・すべての学期において訓練を実施できた。
		②-3 保健だより等を月1回発行。	・保健だより、カウンセラーだよりを発行した。	A		・8月を除き毎月保健だよりを発行することができた。内で流行している時期には感染症予防対策ポスターを作成した。次年度も定期的に発行し、内容についても検討したい。
		②-4 規則正しい生活習慣を確立するための指導を1、2年生を対象に年2回実施。	・7月、10月、1月の計3回実施した。	A		
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 部活動・生徒会活動を活発にする。	・活発に実施できた。			
①-2 球技大会はアンケートで種目を決定し、	・2学期は中3も参加して実		・講演会や集会等の			

		生徒が主体的に運営する。	施。また、先生チームとの対戦も実施し、大いに盛り上がった。	機会を活用して、集団に対する保健指導の機会を少しずつ増やしていきたい。		
		②-1 生徒防災委員長がアピール放送を行い、防災意識を高める訓練を行う。	・放送は実施しなかったが、防災訓練や文化祭で啓発活動を実施した。			
		②-2 毎日の清掃活動を「5分前」に取りかかる姿勢を身につけさせる。また、モノを大切に使う精神や分別作業を徹底するため啓発活動を積極的に行う。	・毎日清掃活動5分前の放送を委員会で実施し、取り組みに意識付けを行った。			
		②-3 電気・水道使用量を広報し、節電・節水を呼びかける。	・ポスターの掲示により呼びかけを行った。			
		②-4 生活習慣改善プロジェクトを活用し、睡眠や肥満予防についての指導を実施する。	・生活習慣改善プロジェクトにおいて、睡眠、朝食摂取、運動習慣、メディア使用時間に特化し、睡眠や肥満予防に繋がる指導を行った。			
		評価指標	評価指標による達成度	総合評価		
<p>[5] 家庭・地域社会との連携による「社会に開かれた教育課程」の推進</p> <p>(総務課)</p> <p>(教務課)</p> <p>(進路指導課)</p> <p>(環境防災課)</p> <p>(企画マルチメディア課)</p>	<p>①情報公開を積極的に行う。</p> <p>②家庭・地域社会と連携・協働しながら、生徒の能力を伸長する教育課程の実施に努める。</p> <p>③学校評価や学校運営協議会制度を活用して、教育方法や学校運営の改善を図る。</p>	①-1 ホームページのアクセス数が年間200万件以上。	・ホームページ切り替えにより、カウンターが変更され、不明。	未評価	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>・ホームページの更新回数が目標に届いていない。新着記事増が課題である。</p>	<p>○一年間スケジュールの配信を検討していただきたい。</p> <p>○ホームページは広報活動の最大の機会であるので、校内の更新者が適宜更新するように呼びかけを強化していきたい。</p>
		①-2 ホームページの更新回数は、年間200回。	・1/16までで新着記事は82件であった。その他更新は50件程度である。	C		
		②-1 P T A総会の保護者参加率50%以上、文化祭一般公開日の来校者数1,000名。	・P T A総会の保護者参加率は37.8%。(授業参観参加率は79%) ・文化祭一般公開日の来校者数は880名であった。	B		
		②-2 各学年の「保護者対象進路説明会」保護者参加率60%以上。	・参加率は56%で達成できなかった。(普通科55%、商業科4%)	C		
		②-3 地域との合同避難訓練の参加者数を30名以上。	・日程の確保ができず、実施できなかった。	C		
		③ 学校運営協議会を年間2回以上開催。	・学校運営協議会を年間3回実施した。	A		
		活動計画	活動計画の実施状況			
①-1 生徒や保護者には、定期的にHPを閲覧	・家庭へので連絡事項も多か					

		<p>するよう呼びかける。</p> <p>①-2 学校行事や部活動実施後にホームページを更新する。</p> <p>②-1 生徒・保護者・地域社会・学校が一体となって、充実した教育活動が実践できるよう努める。</p> <p>②-2 進路に関する情報提供を積極的に行う。</p> <p>②-3 自主防災組織との合同訓練を行うことで、地域との連携を図り、共助の精神を養う。</p> <p>③ 学校評価アンケートを2学期末に実施し、その結果をもとに3学期に学校運営協議会を開催する。</p>	<p>ったためか閲覧者は増加した。</p> <p>・何度か更新を呼びかけや依頼を行ったが、更新回数は不十分とは言えない。</p> <p>・保護者の方々の御理解、御協力により、安心・安全な教育活動を行うことができた。</p> <p>・概ねできたと思われる。PTA研修旅行は今年も実施できた。</p> <p>・実施できなかった。</p> <p>・学校評価アンケートを12月に実施した。2月に第2回学校運営協議会を実施する予定である。</p>		
<p>[6] 伝統を受け継ぐ さわやかな校風の樹立</p> <p>(生徒指導課)</p> <p>(環境防災課)</p>	<p>①文武両道を遂行し、礼儀正しく「さわやかで活力あふれる富東」の精神を高める。</p> <p>②地域社会の期待に応えるとともに清潔な環境の中で、心のふれあう校風を樹立する。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 学校評価アンケートで「友だちや先生にきちんとあいさつができてい」の項目で「おおよそ当てはまる」以上の回答が90%以上。</p> <p>② 学校周辺や避難経路の清掃を各クラスで年2回以上実施。</p> <p>活動計画</p> <p>① 生徒会や生活委員会のあいさつ運動を活性化させ、生徒から自発的にあいさつができるよう働きかける。</p> <p>② HR活動でごみゼロ運動の日を設定し、学校周辺の校外清掃活動に取り組む。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>・あいさつができていると自己評価した生徒は、91.9%と目標を達成した。 A</p> <p>・学校周辺や避難経路の清掃を学校全体で3回実施した。 A</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>・月1回、生活委員会によるあいさつ運動を実施して活性化を図った。</p> <p>・学校周辺や避難経路の清掃を学校全体で実施した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>・校内では自発的にあいさつができる生徒が多く、活力が感じられる。一方、声に出してあいさつができない生徒も一部みられる。</p>	<p>○生徒のあいさつがあまりできなくなってきたように感じる。生活指導であいさつに力を入れて欲しい。</p> <p>○校舎内や通学時の外来者へのあいさつの声が小さかったり、あまりできていなかったりするという指摘がある。どのような場面でも心のこもったあいさつをすることの大切さを伝え、「挨拶で心ふれ合う富東」を体現できる生徒を育成したい。</p>